

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000259		
法人名	加納商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうあい 東棟		
所在地	群馬県富岡市中高瀬61-5		
自己評価作成日	平成30年4月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①清潔ケア・・・午前・午後の2回下のケアを行い、その他排便時に行う。入浴以外の日は必ず足浴を行っている。(輪になって歌を唄い心身共にコミュニケーションを図っている。)</p> <p>②手作り料理・・・利用者様が毎日の食事をおいしく摂取できることを願っている。</p> <p>③手足運動・・・1日3回手足運動を行っている。下肢筋力の維持の為、毎日ボール蹴りを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員の意見の反映については、A棟・B棟のケアマネジャー・管理者も同席した夜勤専門職員のスタッフ会議の開催や昼食後のミーティングでの意見交換へと繋げることで、昼夜のケアの統一化に努力している。また、各職員の情報は「職員連絡ノート」を活用することにより、記録の大切さを心がけた情報の共有化を図っている。利用者への日常の支援では、調理専従スタッフを6名配置し、利用者が食べやすい手作り料理を平成13年から続けている。専従職員がいることにより衛生面の確保と、他の職員がケアに集中できる体制を構築している。清潔面では、入浴日以外の日は共用空間のホールで、輪になっての足浴を実施し、足を湯につけながら全員で歌を歌うなど、コミュニケーションの場ともなり入浴感を楽しむ工夫が行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000259		
法人名	加納商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうあい 西棟		
所在地	群馬県富岡市中高瀬61-5		
自己評価作成日	平成30年4月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らし続けることの意義を重く受け止め、その人らしく暮らして行けるよう支援して行くために、理念をもう1度職員で振り返るようにしている。	開設当初に作成した理念は、日々どこでも目にふれることで意識に繋がると考え、事務室・共用空間・トイレ等あらゆる場所に掲示している。支援に際しては利用者のプライドを大事に否定しないで受け止めることが、理念の「心、生活を大切にすること」に繋がると考え支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の道路清掃やごみ収集所の掃除当番、消防の研修に参加し近所の方とあいさつを交わしている。	開設時、地域住民に2回説明会を開き理解を求めた。自治会に入り回覧板が回り、地域の状況の理解につながっている。近所で火災が発生した時には、利用者の避難誘導の協力のため、地域の方が多数事業所に集まる等、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等で伝えながら民生員、区長などと困っている方の相談にお互い連携を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で現状の変化や様子などを取り上げ、重度化しているなど、外出もままならない様子を知って頂き、相談して協力を得ている。	2ヶ月毎に開催する会議では、メンバーからの運営に活かせる内容の意見は少なく、講師を招いての勉強会、利用者の空状況報告や消防訓練の開催等が主な議題として開催している。	運営推進会議のメンバーが固定されており、議題によっては警察官・消防職員等のメンバーが入る事や、欠席の家族に議事録を送付する事等、事業所への意見、助言が得られる体制作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の運営推進会議の参加、ホーム側から包括支援センター主催の会議に毎回参加して連携を深めている。	包括支援センター主催の会議に参加し、対応困難事例検討や、利用者の空状況の把握等を行っており、市に出向くことはあまりない。	介護保険の保険者である市とどう取り組んで行くかなど日々模索を行い、市との相互の関わりを強めていくことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修内容を参考に具体的行為を正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全確保の為にベットの柵使用等があるが、必要時以外は取り外している。言動で気になる職員については個別面談や、ミーティング時に、全員に注意を込めている。スピーチロック等は、事例ごとに話し合っている。家族には、入居時にケア上いたしかたのないリスク等を説明し、同意書もらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティングで利用者の状態を確認して、介護者自身を追い込まない様、悩みを共有しながら虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の日常生活自立支援事業の担当者に研修をして頂き、勉強会をしている。対象者がいれば、市とも相談して行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項等々の説明を充分に行いさまざまな細分の疑問点にもこたえる旨を伝え理解を得て契約を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から些細なことでもお伝えし、気軽に何でも相談して頂ける環境作りをしている。	家族の面会時に利用者の状況を伝えたり、家族の悩みを聞いたりしている。面会の少ない家族には電話を入れ状況を報告し、意見交換を行っている。利用者に関することが多く、運営に関わる意見は聴取できていない。	利用者の状況の伝達や家族の悩み相談等は実施しているが、事業所への要望・意見等運営に関わる意見を聞ける場作りを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼休みのミーティングで出た意見を上に繋げて、全体会議などで内容の検討を行っている。	職員には年2回開催の全体会議で、外部評価や消防訓練・定期健診があることなどを伝達している。管理者は、ケアに関する物品等を請求すると、快く補充してくれるので話やすいと職員は感じているが、運営に関わる意見の場づくりには至っていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	水準を決める際には評価基準を基に職員個々の努力を把握して、それに見合う待遇を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修を3ヶ月・6か月と行い、内外研修を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する研修があり、互いのスタッフが訪問して活動を通じて意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会・見学に来所して頂き、アセスメントを行い納得の行くまで相談を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談で時間をかけて相手の要望を受けている。ホームの内容も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	書類を用意してあり、その時どうするかまで主治医の意見もふまえ、さまざまなサービスを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活場面や本人との会話の中から職員が利用者様に教えてもらうことが多く、笑いのある日々になるよう共に支えあう関係作りを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活・体調など、ホーム便りや一筆箋などで伝えている。体調の変化などその都度連絡して、共に支える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出、家族・友人・知人の訪問は歓迎しており場所を設定して楽しんでもらっている。	馴染みの場所や友人、以前使用していた物品等は、利用者が大切と思っているので、「馴染み」は大事と考えている。「馴染み」を支援することにより、反応の無い方が喜ぶ姿を見ることが活性化に繋がるので、意識して関わっている。家族とともに外食・受診等で、馴染みの場に触れる機会も多くある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方やそれぞれの状態の把握を行い、会う者同士のソファでの会話に同席して、孤立しないよう皆と和をもち、関係を築けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の家族はサービスの終了後の不安を強く持っています。よく相談を行い、いつでも支援のお手伝いをできることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や本人との会話の中から本人の思いや意向を把握して、その方に合った生活に近づけるよう支援している。	日頃のケアの中で利用者の表情を観察し、声かけを多くする関わりをしながら、本人の思いを捉えている。また、洗濯物たたみ、食事の手伝い等、本人がしたい事をする事が、意向に繋がると考えている。職員が捉えた情報は、夜勤者から早番への引き継ぎ時や「職員連絡ノート」で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの背景をアセスメントし、ケアプランに活かしてサービスに繋いでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの状態、言動を見ながらその方に合った環境を作るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日々の関わりの中で思いや意見を聞き、ミーティングや職員会議、夜勤者会議の中で職員が気づきや意見を出し合い利用者本位の介護計画を作成している。	要望は入居時に確認し、情報を職員全員で共有・検討し、ケアマネジャーが計画立案している。モニタリングは、日々のケアの中で実施している。長期目標は1年・短期目標は半年を原則としている。	書式内容・記録内容等を検討することにより、介護計画と日々のケアの実施状況・各種記録・評価修正の繋がりが見える一貫した内容となるよう検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの日常を記録し、記入している。引き継ぎを行い、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、主治医とも相談しながら、既存のサービス以外に生まれるニーズには、最大限考えて話し合い、今必要なことに繋げるよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや消防訓練を運営推進委員会等で協力しながら行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に要望を聞いて疾患の内容により、それぞれのかかりつけ医を受診している。ホームでの主治医の紹介もさせて頂いている。	大きな病気になった時には家族に対応してもらうが、それ以外はかかりつけ医への調整・対応は、職員が対応している。協力病院での利用者への健診は月1回あり、歯科検診等必要な受診が途切れない支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師1名・准看護師1名の協働で利用者を支えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員がお見舞いに顔を出し、ご本人を励ましながら主治医とも相談して早期退院に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族に説明し方針の統一を図っている。主治医、家族や職員等で連携を図りながら、状況の変化を伝え本人家族の意向を受け止め、可能な限りホームで支援する。	状態が悪化した時に家族と医師で相談し、今後の方針を決めている。終末期には協力病院の医師と訪問看護師・職員で看取りまで実施している。終末期に関するケアについては、研修会を開催し、知識を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアル作成をして職員で共有している。救急救命の講習を受けて備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い全員参加で避難場所、消火器設置場所の確認を行い、推進会議でも再度地区に声を掛けをして参加をお願いしている。	A棟・B棟合同で避難訓練を年2回実施し、伝達方法や初期消火を体験している。事業所以外の人には地域住民に広報したり、運営推進会議と合わせ、参加を呼びかけている。災害備蓄は必要時にとの思いから、特にしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉掛けには最前の注意を払っている。記録等の個人情報の取扱いに関しては、秘密保持の徹底に努めている。	名字で声かけする、入居前の本人の立場・役割を尊重した言葉かけを意識したり、トイレ・入浴時の羞恥心への配慮等を大事に関わっている。気になる対応をした職員へは、気づいた時に面談・指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何々ができますか。これはどうでしょう。やってみますか。などの本人に合った声掛けで自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが抱えていることを大事に、その日の体調に合わせて1日を過ごせる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院、お花見、家族との外出に本人と相談しながら見出しなみやお気に入りの服を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを分かり、柔らかく呑み込みのよい食材を用意している。お手伝いの出来る方にはできる範囲内でしてもらっている。	ケアする職員が職務に専念できるよう、料理専従職員を6名確保し、日々手作りの食事を提供している。利用者に合った献立内容や調理法を考え提供し、食事の時間では常に利用者に声かけをしながら、食事を楽しむ工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方、水分摂取量の少なめな方には必ず職員が隣席にて支援している。一日に一度は牛乳を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後の口腔ケアを必ず行っている。虫歯、入れ歯、噛み合わせなどの支援を行っている。入れ歯は外して職員が洗い、口腔内をスポンジブラで汚れを拭き取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を記入して一人ひとりのパターンを把握しながら自立に向けた支援をしている。	紙パンツで失禁が見られるなど、ほぼ介助の方が多く中でも、排泄パターンを参考にトイレ誘導を頻回に促したり、排泄パターンを検討し、布パンツに移行することが出来た事例や、ベットのビニールシートを外せた事例等、自立支援に向けた努力が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を確認しながら、野菜を中心に栄養バランスを考え、運動も加え支援している。頑固な便秘には主治医と相談しながら支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、体調など本人の希望により曜日の配慮をしている。入浴拒否のある時は、状態を見ながら声掛けをして入浴を促している。	入浴は7・8月は3回、その他は2回実施している。入浴拒否の利用者には理由を把握し、介助者を変更したり、湯が目にかからないシャワーキャップの使用や、水不要のシャンプー等を導入し声かけをしながら、入浴の機会を作っている。その他、全員で輪になっての足湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動的な生活の支援、心地よい室温で午睡をして頂き、日光にて布団を温めて熟眠が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を理解しており、処方の変ったときは、全員に周知し、副作用等含め入居者の変化に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の背景のアセスメントなどで生活歴を見て、出来ることを支援する。得意分野、苦手な部分を見て声掛けを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	晴れた日に散歩をしたり、庭に出て花の鑑賞を行う。家族等と食事や墓参りに出かけられるよう支援している。	遠出では花見会に行ったり、近くでは周りの田んぼ道や古墳まで散歩したり等、日頃から外出の場がある。また、事業所の広い庭では草木を眺め、洗濯物を干したりして、外気に触れる機会を作っている。さらに、家族とともに食事や外泊を楽しんだり、家族が居室に来たりして、日常生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はありませんが、本人の希望の物の買い物に同行し、明細は立替にして家族に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用してもらっている。暑中見舞い、年賀状を書き家族に送っている。月1回利用者様の様子を手紙でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を丁寧に行い、美しく飾った花など清潔感あふれた玄関、ホール、季節を感じてもらえる庭、心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者にとって居心地のよい空間を意識し、テレビが嫌いな方へはテレビを背にした席の設定や、花作りが好きな方や農業をしていた方には庭での野菜作りへの参加等、居心地が得られる共用空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話の合う利用者同士の若いころの話が盛り上がるような支援を行い、明るい日差し、庭の花を季節ごとに楽しみながら過ごせるよう工夫している。春には日差しをいっぱい浴びる時間を楽しめるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物品を使用してもらい、家族の写真や花、カレンダーを飾り、心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	備品は、ベットと整理ダンスがある。居室には家族の写真や行事での自分の写真等が飾られ、本人の意向等で、馴染みの物が少ないなかにも落ち着ける空間が工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、ホールと区別してあり、分かりやすく自由に行き来出来るよう工夫している。		